

子どものけいれん&頭痛診療

二木良夫【著】

評者

児玉和彦

こだま小児科理事長

私は、子どもの診療が得意な総合診療医として、小児診療と総合診療の両分野でお仕事をさせていただいています。数年前、小児の稀な疾患についての症例カンファレンスをする機会をいただいたときに、最初の数分で見事な推論から一発診断をしたのが二木良夫先生でした。本書は、「けいれん」と「頭痛」について、米国小児神経科専門医でもある二木先生のあふれんばかりの情熱と、整理された知識と経験が詰め込まれた良書です。

子どもの「けいれん」は、小児科医にとってはコモンディジーズですが、総合診療医としては対処に悩むテーマです。熱性けいれんの対応に自信を持つには、本書にあるフローチャートを見るとよいです。熱性けいれんの子どもを持つ親御さんからのさまざまな質問に答えるためのエビデンスに基づいた説明例が記載されているのも、初学者には親切です。

また、小児科医でも苦手な子どもの「てんかん（発作）」について、専門医の視点からわかりやすく記

載されていて、多くの気付きがあるところが本書の真骨頂です。「Rage attack はてんかんではない」など、てんかんに似た病気の鑑別はベテラン小児科医でも役に立ち、明日からの診療意欲につながります。付け焼き刃では専門家には敵わないことがわかります。

一方、「頭痛」診療は総合診療医が得意とするところですが、小児科医からは鑑別診断が十分に挙がってこないことがあります。小児科医が正しく片頭痛を診断することは、子どもたちの学校生活において非常に重要です。本書では二木先生の平易な語り口で、片頭痛について学べます。子どもから適切な病歴を得ることは難しいですが、それについても小児神経科医ならではのアドバイスをもらえます。後半に書かれている片頭痛の治療、特に予防投与の解説は、果たしてプライマリ・ケア医がどこまでやってよいのかと迷ってしまうくらい、「明日から処方できる」具体的な記述になっています。

随所にちりばめられる米国での臨床経験からのピットフォールと



コツは、本書でしか読めない内容で、これだけでも価値があります。頭部 CT をどの症例に撮るべきか、眼底の診察はどのようにするべきかなど、日本の現状を踏まえた二木先生だからこそ、バランスのよい意見には納得するところが多いでしょう。

何よりすごいのは、この本が1人の開業医によって書かれているところです。忙しい一般診療を丁寧に笑顔で行いながら、執筆を続けた二木先生はすごい！と思います。たくさん勉強して、たくさん患者さんを診る医者は最強であると再確認させてくれる本書を、子どもをうまく診療できるようにになりたいあなたにお薦めします。

A5 判・頁 162

2020 年 8 月

定価：3,850 円(本体 3,500 円
+税 10%)

[ISBN978-4-260-04278-9]

医学書院刊